

D. 結論

1. 公式ホームページの運営、アクセス数の分析に加えて、取り組みのデータベースのカスタマイズを行い、健やか親子21の情報の拠点とした。
2. 健やか親子21の指標について、既存資料および既存の研究班で把握できない指標について、モニタリングが必要である。
3. 母子保健情報システムのソフトウェアを完成させ、保健所等での分析指導のソフトおよびマニュアルを完成させた。

E. 研究発表

1. 論文発表

平成16年度

- 山田七重, 薬袋淳子, 松浦賢長, 長瀬博文, 玉腰浩司, 三國和美, 山縣然太朗: 健やか親子21 ホームページに搭載した母子保健・医療情報データベースの活用. ペリネイタルケア 23 (6). 2004.6.1

平成17年度

- 山縣然太朗. これからの小児保健を考えるー小児科医と育児支援 「健やか親子21」の位置づけと課題. 小児内科. 37.863-7:2005
- 山縣然太朗. 子育て支援のための家庭と地域保健、学校保健との連携 ～母子保健情報の収集と利用・活用のシステム構築～. こども未来. (10). 7-9:2005
- 山縣然太朗. 健やか親子21 中間評価に向けて. 厚生労働. (11). 6-10:2005
- 松浦賢長, 小松原かおり, 安田梓. 幼稚園における性教育の実践. 心とからだの健康. 97.33-9:2006
- 山崎嘉久. 相談力を磨きましょう. チャイルドヘルス. 8.2:2005
- 糸数公, 普久原朝政, 大城清子. 乳幼児健診のあり方に関する研究 (報告). 沖縄の小児

保健. 32.23-27:2005

- 山中龍宏. 子どもの事故予防と Safety Promotion. 小児科臨床. 58.695-701:2005
- 山中龍宏. Safety Promotion. 小児内科. 37.878-83:2005
- 山中龍宏. 乳児の事故と SIDS. 小児科診療. 68.451-9:2005
- 山中龍宏. 誤飲事故の予防: 小児科医からの提言. 小児外科. 37.910-5:2005
- 山中龍宏. 小児の事故と安全教育. 小児科. 46.1823-8:2005

平成18年度

- 山縣然太朗: 【TOPICS】 マタニティマークのデザイン決定. 保健師ジャーナル 62 (5): 411p. 2006.5
- 山縣然太朗: 育児支援. 周産期医学必修知識第6版 (周産期医学 第36巻増刊号): 945-947. 東京医学社. 2006.12
- 山縣然太朗: 母子保健対策ー健やか親子21と次世代育成対策推進法. 図説 国民衛生の動向 2006: 54-55. 財団法人厚生統計協会. 2006.10.
- 鈴木孝太, 山縣然太朗: 少子化の現状と政府の施策 「健やか親子21」からの展開とつながり. 臨床栄養 109 (2): 182-186. 2006.8
- 鈴木孝太, 薬袋淳子, 成順月, 田中太一郎, 山縣然太朗: 都道府県における母子保健統計情報の収集・利活用に関する研究. 厚生指標 54 (2): 14-17. 2007.2

2. 学会発表

平成16年度

- 薬袋淳子, 山田七重, 近藤尚己, 水谷隆史, 松浦賢長, 玉腰浩司, 長瀬博文, 武田康久, 山縣然太朗: 健やか親子21 ホームページにおける取り組みのデータベース再構築と活用に関する報告 第63回日本公衆衛生学会

2004. 10. 27

- 森川美保子, 松浦賢長, 山縣然太朗: 地域保健と学校保健のスタンスの違いに関する研究～養護教諭と保健師との連携の模索～第 63 回日本公衆衛生学会 2004. 10. 27
- 中村 敬: 育児不安軽減に向けた取り組み、小児保健研究 63 巻 2 号: 118-126、2004
- 中村 敬, 上石晶子, 長坂典子 子育て中の親たちはかかりつけ医に何を求めているか—親たちのかかりつけ医に関する意識調査から—、「愛育ねっと」、2004 年 9 月
- 中村 敬 地域における子育て支援—「ひろ場」事業の実態—「愛育ねっと」、2004 年 12 月
- 森山浩司 松浦賢長 葉袋淳子 山縣然太朗: 保健所・市町村間保健師連携尺度開発—健やか親子 21&次世代育成研修会から—第 63 回日本公衆衛生学会 2004. 10. 27

平成 17 年度

- 葉袋淳子, 鈴木孝太, 近藤尚己ほか. 健やか親子 21 ホームページ「取り組みのデータベース」母子保健活動セレクト 100. 第 64 回日本公衆衛生学会 (札幌) 2005 年 9 月 16 日
- 鈴木孝太, 他: 妊娠中の母体のストレスと低出生体重児の関連. 日本公衆衛生雑誌、52(8): 693.2005
- 尾島俊之. 妊婦等の喫煙防止事業と喫煙率の関係. 第 16 回 日本疫学会学術総会 (名古屋) 2005 年 1 月 23 日
- 中澤和美: 実施報告データに基づいた乳幼児健診結果の変遷. 第 51 回東海公衆衛生学会. 平成 17 年 8 月 6 日 多治見市文化会館
- 中澤和美, 秋津佐智恵, 青山亜由美, 塩之谷真弓, 小出世志子, 山崎嘉久, 榊原るり子, 片岡博喜: 標準化された乳幼児健診実施データ報告システムの評価指標に関する分析. 第 27 回全国地域保健師学術研究会 平成 17 年 10 月 13 日～14 日 岐阜市長良川国際会

議場

- 谷原真一, 葉袋淳子, 近藤尚己, 鈴木孝太, 武田康久, 山縣然太朗, 藤田委由. 1 歳 6 か月児の事故経験頻度. 第 52 回日本小児保健学会、下関、2005 年 10 月 8 日、第 52 回日本小児保健学会講演集、374-375、2005

平成 18 年度

- 真名子香織, 久野一恵, 松浦賢長, 山縣然太朗: 幼児期における遊びを中心とした生活習慣の相互関連に関する研究 第 65 回日本公衆衛生学会 (富山) 2006 年 10 月
- 甲斐友佳, 鈴木茜, 渡辺多恵子, 佐藤千織, 山崎嘉久, 松浦賢長, 山縣然太朗: 健やか親子 21 中間評価のための産後うつ病スケール (EPDS) 得点の分散に関する研究第 65 回日本公衆衛生学会 (富山) 2006 年 10 月
- 久野一恵, 真名子香織, 松浦賢長, 山縣然太朗: 食育の観点からみた生活習慣と親の知識・意識の関連第 65 回日本公衆衛生学会 (富山) 2006 年 10 月
- 鈴木茜, 松浦賢長, 山縣然太朗: 保護者保有型母子保健ガイドブックの開発に関する研究第 65 回日本公衆衛生学会 (富山) 2006 年 10 月
- 渡辺多恵子, 鈴木茜, 松浦賢長, 山崎嘉久, 山縣然太朗: 妊娠届出時に集積すべき問診情報に関する研究第 65 回日本公衆衛生学会 (富山) 2006 年 10 月
- 佐藤千織, 鈴木茜, 渡辺多恵子, 甲斐友佳, 山崎嘉久, 松浦賢長, 山縣然太朗: 妊婦の母性健康管理指導事項連絡カードの周知と使用に関する研究第 65 回日本公衆衛生学会 (富山) 2006 年 10 月
- 山縣然太朗, 柳澤正義: 「健やか親子 21」中間評価の概要 第 53 回日本小児保健学会 (山梨). 2006 年 10 月

■田中太一郎, 山崎嘉久, 松浦賢長, 葉袋淳子, 鈴木孝太, 近藤尚己, 山縣然太朗: 健やか親子 21 の中間評価を踏まえた母子保健情報システムの構築 第 53 回日本小児保健学会 (山梨). 2006 年 10 月

■第 17 回日本疫学会学術総会シンポジウム. 2007 年 1 月 26 日. 広島市南区民文化センター
山縣然太朗: 「母子保健における疫学研究の成果と将来展望」

3. 講演会・研修会

平成 16 年度

■第 64 回日本公衆衛生学会 自由集会. 知ろう・語ろう・考えよう! “一歩先行く” 健やか親子 21. 2004. 10. 27. 18:00-20:00. 島根

■幼児期健康支援担当者研修会. 妊娠出産期・地域から学校につながる情報連係を考える 一生まれてから就学までのエアポケット・幼児期一. 2004. 12. 23. 13:00-16:30. 奈良

平成 17 年度

■母子保健指導者研修会. 2005 年 3 月 23 日 13:00-15:00. 山口県健康づくりセンター (山口県総合保健会館内) / 子どもの事故予防について

■「国保、福祉及び保健担当課長並びに保健師合同研修会」及び「保健活動管理者研修会」. 2005 年 8 月 10 日 10:00-16:00. 山梨県自治会館 1 階 講堂 / 根拠に基づく保健活動の展開～情報の収集と利活用～

■玉穂町子育てサポーター養成講座. 2005 年 10 月 11 日 11:20-12:20. 玉穂町生涯学習館 2F 研修室 / 子育てサポーターとしての心掛け

平成 18 年度

■「健やか親子おきなわ 2010」推進研修会 【2006 年 11 月 14 日 13:30-17:00. 浦添市社会福祉センター】

山縣然太朗: 「健やか親子 21」中間評価及び推進について

■びわこ健康づくり研究会 【2006 年 10 月 21 日 10:00-12:00. 滋賀医科大学管理棟 2F 中会議室】

山縣然太朗: 「健やか親子 21」の中間評価を踏まえた今後の母子保健施策

■第 53 回日本学校保健学会シンポジウム 1「ヘルスプロモーションと学校保健」. 2006 年 11 月 11 日午前. サポートホール高松
山縣然太朗: シンポジスト「健やか親子 21 の現状と課題」

F. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

該当なし

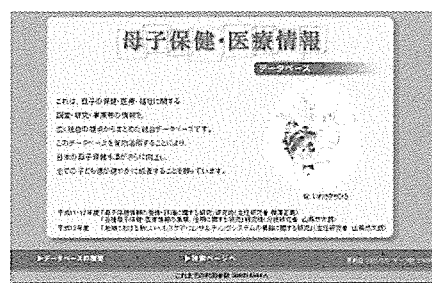
2. 実用新案登録

該当なし

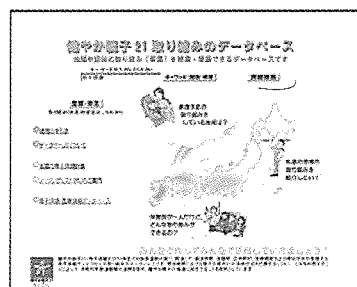
3. その他

2 つのデータベース

1. 母子保健情報データベース



2. 健やか親子 21 取り組みのデータベース



健やか親子21公式ホームページの展開 (2004－2006年度3年間のまとめ)

薬袋 淳子 山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座
山田 七重 山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座
吉岡名保恵 山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座
山縣然太朗 山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座

本研究の一環として、2001年度より構築・運営してきた健やか親子21公式ホームページの2004－2006年度の展開について報告する。2004年10月と2006年7月に厚生労働省母子保健課から、全国各自治体における母子保健に関する取り組みの情報提供の呼びかけが行われ、内容が充実した「取り組みのデータベース」を中心に、1年間に約60回更新した本ホームページの内容、及び、アクセス数による活用度のまとめ報告することを目的とした。

健やか親子21公式ホームページへのアクセス数は、2007年3月の時点で約45万件のアクセスがあり、1年間で約10万件のアクセス数を得た。取り組みのデータベースは、2003年度にデータの量質、およびシステムの使いやすさ等の見直しを行い、新しいデータベースシステムを確立した。また、2004年と2006年には登録された取り組み事業から「優秀な取り組み」として専門家による優秀事業の選出を行い、この優秀事業を検索できることを目的に2006年度はデータベースの再構築を行った。2007年3月時点の登録事業数は3,623件である。

利用度の高かったコンテンツは、「母子保健・医療情報データベース」、「健やか親子21について」、「取り組みの目標値」、「イベントと研修会情報」の順であった。また、「取り組みのデータベース」については、年度の初め、および情報提供を呼びかけた月にはアクセスが急上昇した。「子育てリンク」はリンクの依頼が多く寄せられ、一般家庭で役立っているという声が多いコンテンツである。

毎週更新している本ホームページは、安定したアクセス数を得ており、一般の方からのメールも多く更なるホームページの充実が期待できるため今後の展開に注目していきたい。

I. 研究の目的

本研究班では、健やか親子21の推進を目指した、母子保健サービス実施の情報収集と供給体制の整備のために、健やか親子21公式ホームページを構築、運営している。2001年5月に公開、2006年3月18日現在、約45万2,000件のアクセスを達成している。

2003年度に本ホームページのリニューアルを行ない、大きなイベントとしては、研究班独自のデータベースである「取り組みのデータベース」をリニューアル公開した。更に本ホームページの周知を図ることと、取り組み

のデータベースの内容を充実させることを目的に、2004年度には全国自治体にパンフレットを配布し、また、取り組み事業情報の提供と内容の追加、修正については、厚生労働省からの呼びかけを行った。

本研究では、健やか親子21ホームページの2004－2006年度の展開について、取り組みのデータベースを中心に報告することを目的とする。

II. 研究の方法

健やか親子21公式ホームページ

(<http://rhino.med.yamanashi.ac.jp/sukoyaka/>) を2001年5月に公開し、山梨大学医学部社会医学講座にて、日々コンテンツの充実やタイムリーな情報発信を目指して運営している。これらの内容を簡潔にまとめたパンフレットを作成し全国自治体に配布してより広く本ホームページを周知してもらった。取り組みのデータベースに関しては、登録事業内容を分析した。これらホームページの運営・利用状況、取り組み事業内容を、以下の方法で把握した。

1. ホームページの運営状況の把握

ホームページ管理担当者が更新の機会毎に、ホームページ内の更新履歴のページに日付及び内容を記録している。独自に構築した2つのデータベース（母子保健行政の一次資料となる全国を対象とした疫学調査について検索できる「母子保健・医療情報データベース」、全国市町村・都道府県等における健やか親子21に関する「取り組みのデータベース」）については、それぞれの主たる管理者がデータ数等の記録・管理を行っている。これらの記録により、ホームページの運営状況について把握した。

2. ホームページ紹介パンフレット配布と利用状況の把握（2004年度）

ホームページは、利用者のニーズにあった内容に辿り着くまでに時間を要することが多く、これらを回避することと、更に、本ホームページを周知してもらうために、パンフレットを作成した。パンフレットはカラー印刷で、表紙+5ページのA4サイズの冊子である。このパンフレットを、全国自治体に配布した。

利用状況を把握するための指標としては、アクセス数を把握するためのシステムを整備している。このシステムでは、サーバ上で稼働しているプログラムが、常時アクセス状況を記録する。記録内容はコンテンツ及び日時毎のアクセス数である。これらの記録を元に集計するプログラムを定期的に稼働させ、集

計結果をサーバ内の一般から閲覧できる場所に保存している。毎月1日には、前月のアクセス数が集計されることになっている。本来であれば、これらのシステムによって、アクセス元のURLが記録され、どこからのアクセスが多いのか、ということの把握も可能となるが、このホームページのサーバは山梨大学医学部のサーバの中に置いてあるため、山梨大学医学部へのアクセスと混同しており、把握は現段階では非常に困難である。

上記のシステムにより、現段階においては、2001年10月以降の各コンテンツへのアクセス数を正確に把握している。2002年度には、これらの記録を効率的に処理する方法論を考案した。現在2007年3月までのアクセス数を把握・処理している。これらの方法により、コンテンツ毎のホームページの利用状況を把握した。

3. 「健やか親子21の取り組み、及び、ホームページに関する調査」結果から母子保健担当者のニーズを把握（2005年度）

「健やか親子21の取り組み、及び、ホームページに関する調査」結果から、取り組みのデータベースの利用度、意見を中心に、ホームページに対する意見をまとめた。

4. 取り組みのデータベースに登録された内容についてのまとめ

全国自治体から提供された、取り組み事業について以下の通り分析した。

- ① 都道府県別母子保健に関する取り組み事業掲載数を把握した。
- ② 団体区分と保健師の数別の事業登録数を把握した。
- ③ 5つの課題を保健師の数別でみた事業登録数を把握した。
- ④ 5つの課題別の事業実施内容を把握した。
- ⑤ 事業対象者別に実施している事業のキーワードを把握した。

Ⅲ. 結果及び考察

1. 健やか親子21ホームページの運営状況

更新は原則として、週1回行った。

【2004年度】

■「健やか親子21」ホームページ「取り組みのデータベース」優秀事業「セレクト100」が完成。「取り組みのデータベース」に登録された約3,200件の母子保健事業の中から、事業計画の立案、及び、実施、評価のお手本になる優れた事業を、本研究班の分担研究者を中心に母子保健の専門家によって選抜し、「セレクト100」として公開した。

■「関連資料」のページを作成。これまで様々なページに分散して掲載していた情報を、「健やか親子21」の取り組み、各種データ・統計情報、妊娠・出産・育児・子どもの健康、児童虐待防止、思春期などのテーマ別に分け、一括して参照できるようにした。

■子育て中のお父さん・お母さんに役立つ情報のリンク集として、「eサポート」から「こそだてリンク」を公開。「項目別」と「都道府県別」に分けて掲載し、自治体の子育て支援情報に加えて、育児サークルのホームページなどへもリンクした。このリンク集によって、母子保健の専門家だけでなく、一般の人にも「健やか親子21」について知ってもらうきっかけとした。

【2005年度】

■「健やか親子21」中間評価報告に関するページを作成し、「健やか親子21」推進検討会の動向などを随時紹介。関連資料へのリンクを積極的に行った。

■2005年度から始めた「こそだてリンク」への掲載希望が増え、逆に「健やか親子21」公式HPをリンクするHPも増えた。

【2006年度】

■厚生労働省のHPを中心に、「健やか親子21」に関連する母子保健や虐待予防などの情報を収集・リンクすることにより、関係者への周知を促した。

■「取り組みのデータベース」登録を、「各自治体における母子保健に関する取組の情報提供について」として、各都道府県・政令

市・特別区・母子保健担当者に改めて促した。

また、本研究班からは、毎年公衆衛生学会自由集会にて報告、及び、2004・2006年度は取り組み事業を専門化により評価し、優秀事業としてまとめた冊子掲載がある。これについては、別途報告する。

取り組みのデータベースは、利用者である全国の各地域の母子保健担当者によって、随時、登録・修正等が行われている。運営を開始した2002年3月以降、運営側以外から入力されたデータは、10数件と極めて少ない状況であったが、リニューアル公開後は、運営側以外からの登録・修正件数は、5か月間で766件となっており、情報更新が飛躍的に活発になっていた。また、厚生労働省からの呼びかけもあり、2007年3月現在の登録件数は、3,623件と増加し、本来の目的であった、実際に利用する人々が情報を提供し、また活用していくという新たなデータベースシステムが確立されたと言える。

また、独自コンテンツの一つである、母子保健・医療情報データベースは、ほぼ全ての月に渡ってデータの更新作業が行われ、安定したアクセス数を得ている。

2. ホームページ紹介パンフレット配布

健やか親子21ホームページの目的は、利用者にとってわかりやすく、使いやすいものとするのであった。周知してもらう目的で配布したパンフレットは次の通りである。

① 表紙

本ホームページのトップページと、利用の目的別項目を掲載した。「母子保健計画の評価に」「中間評価の統計処理に」「次世代支援行動計画策定に」「ネットワークづくりに」「事業の企画立案に」とした。

② 1-2ページ

【母子保健事業の企画立案評価に二つのデータベースを搭載】とタイトルし、「取り組みのデータベース」と「母子保健・医療情報データベース」についての説明を掲載し、スムーズな活用ができることを目指した。

③ 3ページ

【「健やか親子21」取り組みの目標値の一覧と活用例が取り出せる！】とタイトルし、ベースラインの図表をxlsファイルでダウンロードできるよう工夫した活用例を掲載し、より効果的にxlsファイルを使いこなしてもらえようことを目指した。

④ 4ページ

【講演会研修会をリアルタイムに掲載】【これからますます充実！学校保健とe-サポート】とタイトルし、講演会や研修会のインフォメーションの充実を図ることを目指した。「e-サポート」は、住民がホームページを直接利用することを目指したものであり、母親・父親が事故予防等について楽しく学べるような「e-ラーニング」と、各地域での子育て支援団体の情報が得られる「子育てリンク」の2つのサブコンテンツがある。「学校保健」は、全国の小・中・高校生の健康実態に関するデータを紹介する「学校保健統計」を中心として、地域保健と学校保健の連携のきっかけづくりに利用してもらおうことを目指した。

⑤ 5ページ

【健やか親子21公式ホームページサイトマップ】とタイトルし、利用者が、ニーズに合ったページを簡単に検索できることを目指した。

以上の①～⑤の内容を掲載したパンフレットにより、全国自治体の母子保健担当者が、本ホームページについて視覚的に理解し、これが活用度の向上に繋がることを示唆された。

3. 健やか親子21ホームページの利用状況

図1にトップページへのアクセス数の推移を示した。パンフレットの配布や、呼びかけなどのイベントを起した際にアクセス数の増加を認めた。トップページへの月平均のアクセス数は、約6,200件、日平均のアクセス数は230件で、安定している。

図2に主なコンテンツへのアクセス推移を

示した。利用度が高いコンテンツは、母子保健・医療情報データベース（月平均2,450件）、健やか親子21について（月平均2,038件）、取り組みの目標値（月平均957件）で毎年同様の上位であった。

また、今年度は、子育てリンク（月平均511件）へのアクセスが急増していた。本ホームページで、最もアクセス数の多い母子保健・医療情報データベースについては、常に一定のアクセス数が認められており、このデータベースそのものに直にリンクして、継続的に使っている固定の利用者も多いと考えられる。

取り組みのデータベースへのアクセス数は、月平均695件であったが、情報提供を呼びかけた直後は、月平均の約4倍のアクセス数を認めた。

4. 「健やか親子21の取り組み、及び、ホームページに関する調査」結果から母子保健担当者のニーズを把握

① 健やか親子21ホームページを利用しているか

項目	都道府県	区市町村	保健所(都道府県型)	保健所(政令市、特別区)
よく利用している	3.3	0.3	1.4	3.2
ときどき利用している	66.7	21.3	40.5	41.9
あまり利用していない	23.3	47.5	41.9	40.3
全く利用していない	6.7	23.0	9.8	3.2
知らなかった	0.0	7.8	6.5	11.3

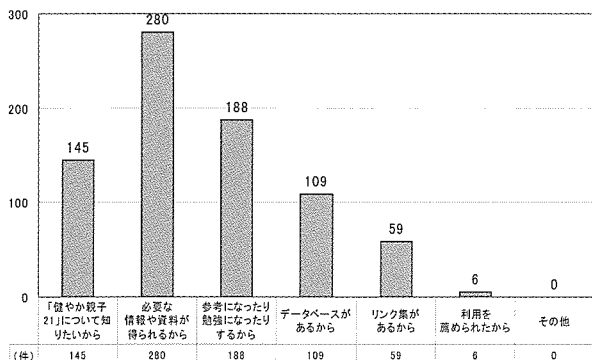
利用する時間がないから
どんな情報が掲載されているのか知らないから
どう活用していいのかわからないから
その他
業務内容に関連する情報や、有益な情報がないから
内容が分かりにくいから
興味がわからないから
インターネットを閲覧できる環境が不十分のためなかなか利用できない
調べたいことはgoogle等で検索しているので
必要性が今のところない
他の手段で必要な情報を得ているから
事業内容が具体的にイメージしにくい
検索するのに手間がかかる。検索しにくい

区市町村の利用率が30%以下と低い状況にあった。最も多い理由は、「時間がない」であった。また、ネットワーク環境が整備されていない理由もあり、今後合併に伴い環境が

整備されることで利用率の向上に繋がることも考えられる。

② ホームページを利用している理由

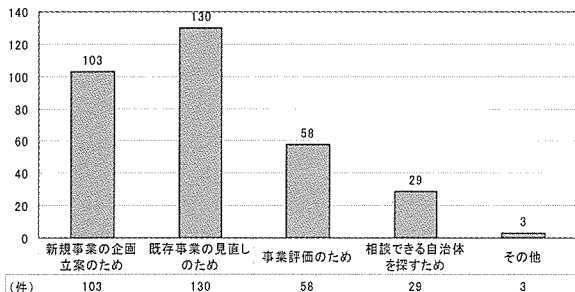
「健やか親子21」HPを利用している理由



「必要な情報や資料が得られるから」「参考になったり勉強になったりするから」が多くの理由であった。情報の収集に活用されていることがうかがえた。

③ 取り組みのデータベースを活用する理由

「取り組みのデータベース」を活用する理由



既存事業の見直しと、新規事業の立案が上位を占め、各自治体母子保健担当者の事業の立案と見直しに有効であることがうかがえた。

④ 取り組みのデータベースについての感想

■ プラス意見上位 (67%)

- ・他の自治体の取り組みについて大変参考になるし、ありがたい。
- ・当所で思春期の事業を実施しているので、参考になる。
- ・他の市町村の事業取り組みを参考にできる。
- ・色々な地域での取り組みが分かり、今後したいと考えている事について、メリット、デメリットについての考えも分かり、参考

になる。

- ・グラフや写真が入っているものは、イメージがわかりやすいのでよいと思う。

■ マイナス意見上位 (33%)

- ・大切なことだと思うが、住民と直接目を見て話する時間、訪問がさらに減ってしまう。
 - ・具体的な取り組みについてもっと詳しく見ることができるようなになればよいと思う。
 - ・資料などもPDFで添付できれば良い。
 - ・もう少し検索しやすくなると良い。
 - ・今後、登録していきたいと思うが、入力項目が多いように感じ、業務に余裕がある時でないとは出来ない。
 - ・インターネットに繋がるパソコンの台数が1台しかないため必要な時に見ることができない。
- これらの感想から、データベースの機能性について検討する必要性を感じた。

5. 取り組みのデータベースに登録された内容の分析

- ① 都道府県別母子保健に関する取り組み事業掲載数は、47都道府県別に見て、ばらつきはあるが、全ての県からの登録を得た。各都道府県において、少しずつではあるが、新規登録が増えている。

県別登録数(2007年3月14日)

北海道	155	滋賀県	42
青森県	173	京都府	85
岩手県	159	大阪府	96
宮城県	95	兵庫県	113
秋田県	24	奈良県	56
山形県	42	和歌山県	85
福島県	135	鳥取県	46
新潟県	102	島根県	37
富山県	21	岡山県	82
石川県	16	広島県	59
福井県	61	山口県	12
茨城県	56	徳島県	57
栃木県	29	香川県	48
群馬県	39	愛媛県	8
埼玉県	17	高知県	3
千葉県	89	福岡県	25
東京都	98	佐賀県	94
神奈川県	213	長崎県	106
山梨県	48	熊本県	131
長野県	96	大分県	82
岐阜県	122	宮崎県	53
静岡県	108	鹿児島県	52
愛知県	124	沖縄県	28
三重県	201	計	2223

② 5つの課題別について示す。(詳細は図3参照)

課題別登録数(2007年3月14日)

課題別	登録件数
思春期の保健対策の強化と健康教育の推進	689
妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援	593
小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備	391
子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	2113
健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ (栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)	992

IV. まとめ

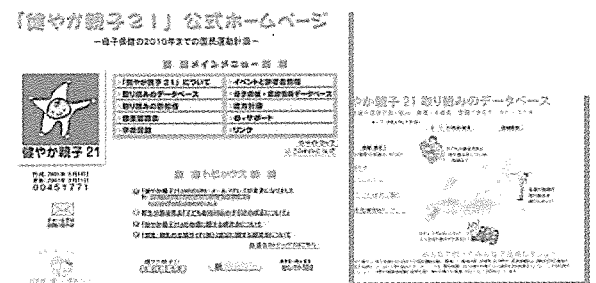
2004年度の健やか親子21公式ホームページの展開について、パンフレットによる本ホームページの周知向上を目指すことから始まり、取り組みのデータベース内容の充実を図ったことを中心に報告した。

パンフレット配布後のアクセス数は確実に増加し、その後凹凸はあるが、本ホームページを周知してもらう目的としての効果はあつ

たと考えられた。また、取り組みのデータベースは、情報提供の呼びかけ後のアクセス数が急増しており、その後減少停滞となっているが、データの量質及びシステムの使いやすさ等の見直しが行われ、実際に利用する人々が情報を提供し、また活用していくという新たなデータベースシステムが確立されたといえる。これらから、インフォメーションすることで、利用者への働きかけができ、活用度の向上に繋がることが明らかとなった。今後は、インフォメーションの効果を、いかに継続させるかが課題である。方法として、利用者のニーズを満たすホームページの内容の更新が必要であると考え。また、取り組みのデータベースに関しては、情報の提供のみの留まっていることが予測されるため、活用することのメリットをアピールしていく必要性を感じた。

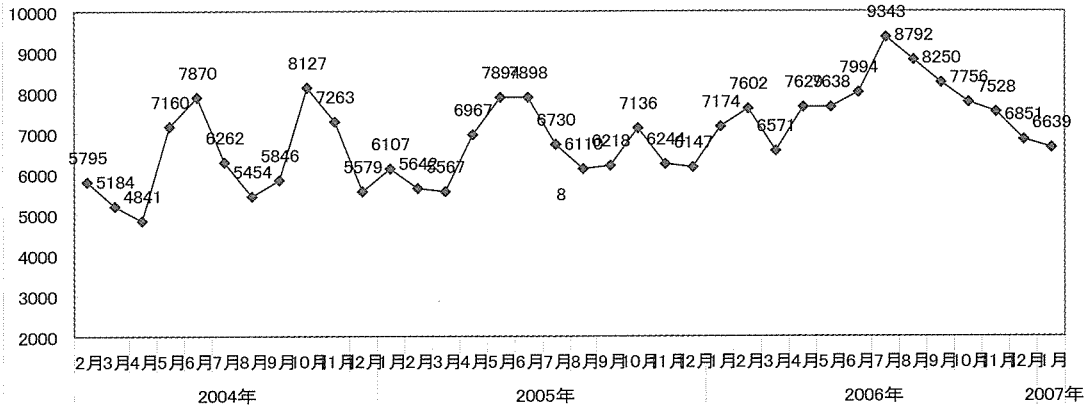
最もアクセス数が多かった母子保健・医療情報データベースでは、毎年安定したアクセス数を得ており、活用できる重要な情報ツールであるといえる。ホームページリニューアルをきっかけとして、パンフレットの配布効果と、取り組み情報の内容の充実に関しての効果は、目的をほぼ達成できたといえる。別途報告している、優秀取り組み事業として専門家の評価は、利用者プラスの働きかけをし、今後より活発にホームページ、及び、取り組みのデータベースが活用されることを期待したい。

一般の方からの問い合わせメールも増加しており、母子保健担当者、および一般の方のニーズに合った活用されるホームページを展開していきたい。

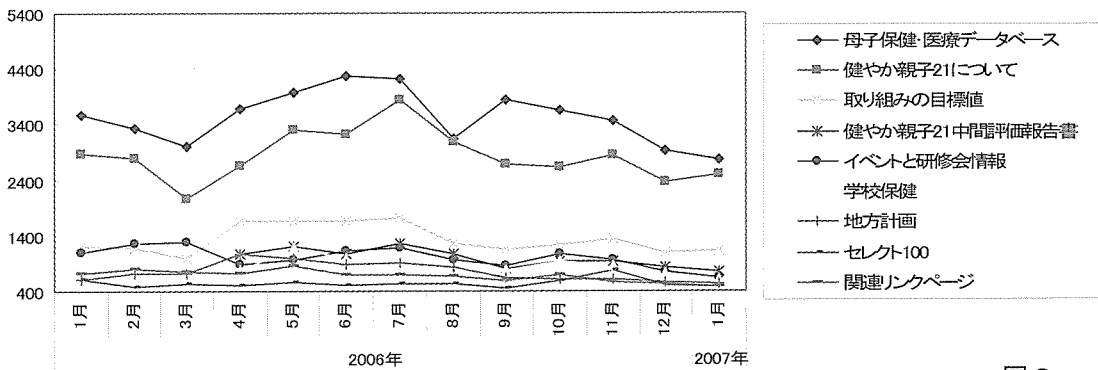


2004-2006年 健やか親子21ホームページアクセス数

図 1



上位コンテンツへのアクセス数の推移
その1 (2006年1月~2007年1月)



下位コンテンツへのアクセス数の推移
その2 (2006年1月~2007年1月)

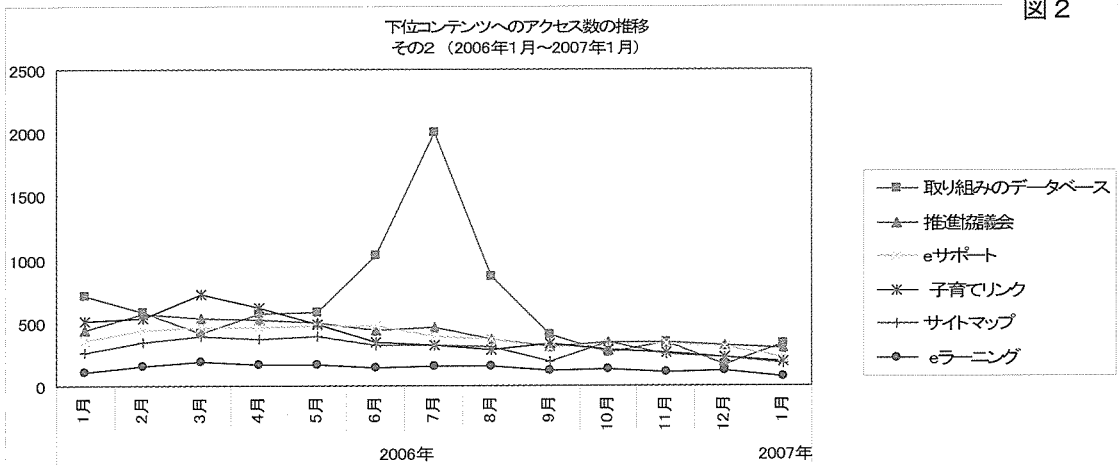
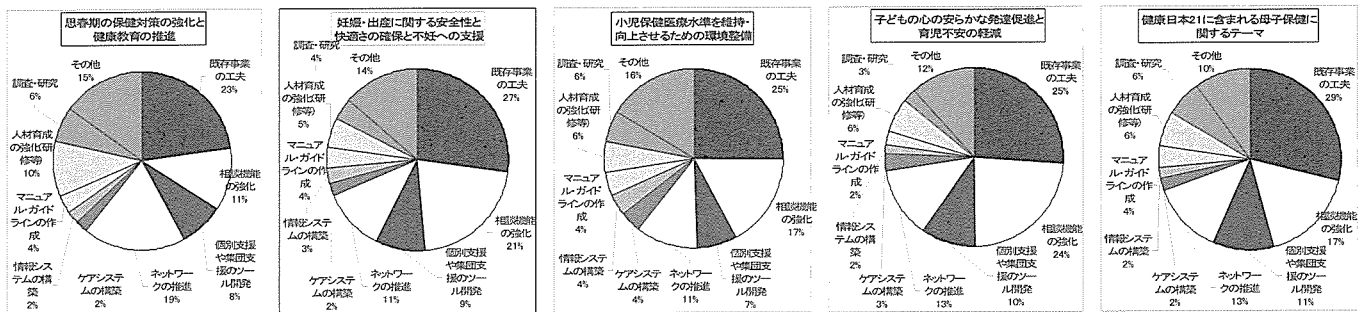


図 3



「取り組みのデータベース」登録事業からの 「セレクト 2004 (セレクト 100)」「セレクト 2006」の選定

山縣然太郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部 社会医学講座
松浦賢長	福岡県立大学看護学部 地域・国際看護学講座
葉袋淳子	国際医療福祉大学 在宅地域ケア研究センター
尾島俊之	浜松医科大学健康社会医学
近藤尚己	山梨大学大学院医学工学総合研究部 社会医学講座
鈴木孝太	山梨大学大学院医学工学総合研究部 社会医学講座
田中太一郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部 社会医学講座
谷原真一	福岡大学医学部 衛生学教室
玉腰浩司	名古屋大学大学院医学研究科 公衆衛生学
中村 敬	日本子ども家庭総合研究所
長瀬博文	富山県高岡厚生センター射水支所
仲宗根正	沖縄県福祉保健部
山崎嘉久	あいち小児保健医療総合センター 保健室
山田七重	山梨大学大学院医学工学総合研究部 社会医学講座
山中龍宏	緑園こどもクリニック
渡辺多恵子	常総市水海道保健センター

21世紀の母子保健の主要な取り組みのビジョンを示した「健やか親子 21」において、市町村をはじめとする健やか親子 21 に携わる関係機関・団体が、インターネット上で事業の情報を共有できるよう、厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合研究)の「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」(平成 13~15 年)をもとに、既存の事業の再構築・事業評価などに活用可能なデータベースを構築し、運営をおこなってきた。この「取り組みのデータベース」がより一層活用され、他事業との比較を通じた事業計画の立案、および実施・評価が促進されるべく、登録されている事業の中から、母子保健活動に特に参考になる先駆的かつユニークな事業を選抜し、2004 年に「セレクト 100 (セレクト 2004)」、2006 年に「セレクト 2006」を発行した。

「セレクト 2004」「セレクト 2006」とともに、「取り組みのデータベース」に登録された全事業の中から乳幼児健診などの通常の事業、「健やか親子 21」の包括的な計画などをのぞき、先駆性、ユニーク性、充実性を考慮して事業を選抜した。「セレクト 2004」は全 3,248 件の事業から最終的に 99 件の事業を、「セレクト 2006」は「セレクト 2004」発行以後の 2005 年から 2006 年に登録された全 730 件の事業から最終的に 43 件の事業を選抜した。

「セレクト 2006」の選抜の課程を通じて、「前回セレクトされた事業が多く在市町村で行われるようになってきていること」、「子育て NPO や高齢者との協働事業、外国人などマイノリティに対する子育て支援が充実してきていること」が明らかになった。同時に、事業をおこなう上で、事業評価を行って科学的根拠(エビデンス)を創出することの必要性など、留意すべき課題も認識された。

はじめに

「健やか親子 21」公式ホームページに掲載している「取り組みのデータベース」を、今後さらに多くの方に活用していただくために、登録された母子保健事業の中から、事業計画の立案、及び、実施、評価のお手本になる優れた事業を、本研究班の分担研究者を中心に母子保健の専門家によって選抜し、2004年に「セレクト 2004（セレクト 100）」、2006年に「セレクト 2006」としてまとめた。以下、その概略について報告する。

1. 取り組みのデータベースについて

現在、市町村を中心に、「健やか親子 21」の様々な取り組みがなされています。子どもたちの健やかな成長と子育て支援のために、私たちは厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究）の「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」（平成 13 年から平成 15 年）において、健やか親子 21 の公式ホームページを構築し運営してきました。構築にあたり、地域での取り組みが活性化されるような情報の提供はできないかと検討した結果、新規事業のアイデアの検索や、既存事業の再構築、事業評価などに活用できる市町村母子保健事業のデータベース構築をおこなうことになりました。ホームページのコンテンツ（項目）について、母子保健関係者を対象に調査した結果、このようなデータベースが必要であると考えている人が多いこともわかりました。そこで構築したものが「取り組みのデータベース」です。現在、当「健やか親子 21 の推進のための情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究」班で継続して構築運営しています。

取り組みのデータベースは、市町村をはじめとする「健やか親子 21」の関連団体が、インターネット上で、情報を入力していただき、それをデータベース化したものです。団体ごとの ID 番号が発行されますので、その後変更等もインターネット上で可能です。現在、3,623 件の事業が登録されています。

データベースの利用は通常データベースのようにキーワード検索に加え、課題別、出生数別、保健師の数別、対象者別など 18 項目の検索項目を用意して、詳細な検索を可能にしています。これにより、事業の目的や地域の規模、実情にあった取り組みを検索することができます。また、検索した事業を並びかえたり、必要な事業をテキストファイル形式や CSV ファイル形式で保存したりできます。

2. セレクトの目的

「取り組みのデータベース」をより一層ご利用いただくために、研究班として、2 つの新しい試みを行っております。一つは、母子保健活動に特に参考になる事業を選抜して提示すること、もう一つは具体的な活用方法を提示することです。このセレクトは、評価まで含めた充実した事業、先駆的な事業、新奇性のあるユニークな事業を選抜しているため、皆様が、現在取り組まれている事業との比較により、評価や見直しの助けになり、更に充実した母子保健活動に繋がることを目的としております。

3. 「セレクト 2004 (セレクト 100)」「セレクト 2006」選抜の過程

① 「セレクト 2004 (セレクト 100)」選抜の課程

第 1 段階として、セレクト 2004 作成段階までに登録された全 3,248 件の事業から、乳幼児健診などの通常の事業、健やか親子 21 の包括的な計画などをふるいにかけて、これにより、1,469 件の事業が残りました。

第 2 段階として、情報量が足りないために事業の内容がわかり難いもの 495 件をはずしました。

第 3 段階は、残り 974 件について、先駆性、ユニーク性、充実性を考慮し、206 件の事業を選抜しました。

第 4 段階として、最終的に 99 件の事業を選抜しました。

各課題別の件数は次のとおりです。

「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」	17 件
「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」	18 件
「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」	6 件
「子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減」	40 件
「健康日本 21 に含まれる母子保健に関するテーマ」	18 件

それぞれの事業は課題が重複するものがありますが、課題別に掲載するために、それぞれを特に関連の強い課題の中にまとめました。

② 「セレクト 2006」選抜の課程

「セレクト 2004」発行以後の 2005 年から 2006 年に登録された、全 730 件の事業から、乳幼児健診などの通常の事業、「健やか親子 21」の包括的な計画などをのぞき、先駆性、ユニーク性、充実性を考慮して、最終的に 43 件の事業を選抜しました。

各課題別の件数は次のとおりです。

「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」	7 件
「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」	9 件
「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」	3 件
「子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減」	17 件
「健康日本 21 に含まれる母子保健に関するテーマ」	7 件

それぞれの事業は課題が重複するものがありますが、課題別に掲載するために、それぞれを特に関連の強い課題の中にまとめました。

総評

① 「セレクト 2004」についての総評

今回のセレクト 100 の選抜作業をおこなうことにより、地域の母子保健担当の皆さんが展開されているそれぞれの事業から多くのことを学ぶことができました。また、現場での共通の課題も見えてきました。次のようにまとめることができます。

(1) 市町村が元気に事業を展開している

多くの市町村が健やか親子 21 の課題を様々な角度から工夫を凝らして事業展開をしていました。保健師が 1 人か 2 人のみで、母子保健から老人保健までおこなわなければならない町村でも、小規模のメリットを生かしたきめ細かい事業を展開されています。また、大規模市では専門家による充実した事業展開をおこなっているところも多く見受けられました。キャッチフレーズなどから担当者も楽しみながら事業を実施していることが伺えました。

(2) 科学的根拠（エビデンス）をつくりましょう

科学的根拠に基づいた事業を実施する必要がありますが、母子保健活動の全てにエビデンスがあるわけではありません。特に新しい課題に対する事業にはエビデンスがないものが多いです。しかし、現場のニーズから何か事業をしなければなりません。そこで、是非、事業評価を十分におこなって、エビデンスを創出しましょう。そのためには、企画立案の段階から、評価を十分にできる仕組みを作っておくことです。また、事業効果の検討は対照があることが望ましいのですが、現場では難しいことです。しかし、時間差で事業をおこなったり、近隣自治体との連携で対照を設定したりすることも可能です。専門家の協力を得ながら、地域活動から科学的根拠をつくりましょう。

(3) 事業の評価をしましょう

事業評価の方法は多くの市町村で悩みの種のようなようです。評価は次のような点に留意するとよいでしょう。

- 1) なぜ、評価するのかを理解する
- 2) 事業計画に評価方法を含めて、評価票を事前に作成する
- 3) 企画の評価、実施過程（プロセス）評価、効果（目標値）評価をおこなう

参考 評価のポイント

■企画の評価のポイント

1. 目的は明確か
2. 優先順位の上位の事業
3. 対象者の選定
4. 実施可能性
5. 他の事業との関連
6. 適切な評価方法
7. その他（住民参加、関連機関との連携、流行、先駆性（目新しさ）、キャッチフレーズ）

■実施過程評価のポイント

1. 企画立案はどのように行われたか
2. 住民参画は
3. 計画通りに実施されたか
4. 実施時期、費用、内容

5. トラブルはなかったか
6. 実施状況はどうだったか
7. 利用状況
8. 利用者の反応
9. スタッフの反応
10. 評価は行われたか
11. 評価の方法は正しいか

■ 効果評価のポイント

1. 要因の改善は果たせたか？
2. 前提要因：住民の意識、知識
3. 実現要因：住民の技術、実施できる環境
4. 強化要因：継続のためのサポート
5. 住民の行動、環境は改善したか？
6. 住民の行動指標
7. 環境指標
8. 健康指標は改善したか？
9. 疫学的指標
10. 住民の満足度

② 「セレクト2006」についての総評

今回で2回目となるセレクトの選抜作業でしたが、全体的に事業内容が洗練されてきたように思います。また、評価についての記載が多くなってきました。特に次の点を今回の総評とします。

(1) 前回セレクトされた事業が、多くの市町村で行われている

セレクトの目的は、母子保健活動の参考となる事業を選抜し、具体的な活用方法を提示することです。前回のセレクト100選抜時に、先駆的であったり、新奇的でユニークであったりしたために選抜された事業が、今回の選抜時には、複数の市町村で同じように行われていました。今後も、取り組みのデータベースをご活用いただき、互いに、活動や事業のヒントを交換されることを期待します。

(2) 連携事業やマイノリティーに対する事業

子育てNPOや高齢者との協働事業が前回よりも多く見られました。健やか親子21の中間評価からも連携の重要性が言われていますが、その方法など様々な工夫がされていました。また、外国人などマイノリティーに対する子育て支援も充実してきているようです。

(3) 事業評価をして科学的根拠（エビデンス）をつくりましょう

前回セレクト時にも述べましたが、母子保健活動の全てにエビデンスがあるわけではありません。特に新しい課題に対する事業にはエビデンスがないものが多くあります。しかし、現場のニーズから何か事業をしなければなりません。そこで、是非、事業評価を十分におこなって、エビデンスを創出しましょう。そのためには、企画立案の段階から、評価を十分にできる仕組みを作っておくことです。また、事業効果の検討は対照があることが望ましいのですが、現場では難しいことです。しかし、時間差で事業をおこなったり、近隣自治体との連携で対照を設定したりすることも可能です。専門家の協力を得ながら、地域活動から科学的根拠をつくりましょう。

おわりに

2001年に始まりました「健やか親子21」も折り返し点を過ぎ、はじめに書きましたように、中間評価が行われました。多くの項目で目標値に近づいており、麻疹の予防接種率の向上や喫煙対策などは、市町村や関係団体の取り組みが指標の改善につながっていました。一方で、市町村による取り組みの格差も、明らかになりました。このような取り組みの格差には、さまざまな要因が考えられますが、情報量の格差もその要因の一つでしょう。この「セレクト2004」「セレクト2006」をはじめ、健やか親子21のホームページによる母子保健情報の提供が、皆様の母子保健活動の一助となれば幸いです。

「セレクト 2004 (セレクト 100)」選定事業一覧

北海道	釧路市保健福祉部健康推進課	思春期保健事業
	穂別町保健福祉課	妊産婦訪問指導連絡票
	札幌市保健福祉局健康衛生部地域保健課	保健と医療が連携した育児支援ネットワーク事業
	遠別町福祉課	ママとあそぼ・ひよこクラブ
	奥尻町役場 保健福祉課保健指導係	歯ッピーキッズ応援団
青森県	天間林村健康福祉課	赤ちゃんふれあい体験学習
	西目屋村保健センター	子育て教室
	板柳町健康福祉課	赤ちゃんふれあい体験学習
	青森県	妊婦連絡票の活用
	深浦町福祉課	禁煙・防煙対策
	三厩村役場 健康福祉課	喫煙予防教室
宮城県	岩沼市 民生部保健課	ママサポート (産婦・新生児訪問における産後うつ・強度の育児不安のスクリーニング調査並びにその支援)
	築館町役場 健康福祉課	母子健康手帳交付時の個別相談
福島県	福島県 保健福祉部自立支援領域 子育て支援グループ	若者の妊娠実態調査事業
	古殿町 健康管理センター	ママパパ学級
	福島県 表郷村役場 健康福祉課	「すくすく教室」及び「発達クリニック」(乳幼児育成指導及び発達相談事業)
	湯川村保健センター	将来に有効な歯みがき技術の獲得
茨城県	美野里町社会福祉協議会	訪問介護員養成研修 3 級課程
	鹿嶋市市民福祉部健康増進課	ペアコース
埼玉県	宮代町健康課 (宮代町保健センター)	乳幼児健診未受診児フォロー
	さいたま市保健所	保健センター事業ふたごっちクラブ
千葉県	白井市健康課	マタニティコンサート+α
	印西市中央保健センター	児童館との関係と連携
	印西市中央保健センター	多胎児支援事業
	大多喜町健康福祉課	地域けんこう委員会・大多喜中学校区けんこう委員会
	鎌ヶ谷市健康管理課	禁煙教育・指導 (母子健康手帳交付時)
東京都	品川区 健康課	ひきこもり家族教室
	武蔵野市福祉保健部保健推進課	ペンギン学級 (就労妊婦のための母親学級)

東京都	東京都多摩立川保健所 企画調整課	健康日本21・健やか親子21のたばこ対策を推進する関係者への支援「妊婦の喫煙をゼロにする」3か年プロジェクト
	東京都杉並区杉並保健所	保護者のこころの相談
	東京都杉並区杉並保健所	産後のメンタルケアの充実（4か月健診へのEPDS導入）
	東京都南多摩保健所	子どもの虐待予防活動の展開
神奈川県	秦野市市民健康課	おめでた家族教室（父親母親教室）
	茅ヶ崎市健康づくり課	ハイリスク妊産婦教室（若いママの子育て教室・35歳からの子育て教室・働くママの母親教室）
	横須賀市健康福祉部子育て支援課	子育て支援ヘルパー派遣事業
	平塚保健福祉事務所 保健福祉課	子ども虐待予防対策～不適切な養育を見落とさず所内で共有で共有し対応していくために～
	平塚保健福祉事務所 保健福祉課	地域における摂食機能発達支援検討事業
山梨県	塩山市保健課	小児の事故予防プログラム
長野県	八千穂村役場	すこやか応援団
	駒ヶ根市教育委員会子ども課	子ども行政の一元化「子ども課」設置
	長門町和田村保健福祉総合センター	子育て交流会
新潟県	長岡市健康課	休日健康診査
	糸魚川市 障害児通園事業	ささゆり教室
	新潟市保健所保健予防課	小児期肥満対策事業～食育の推進～
石川県	金沢市保健所	性感染症相談（クラミジア抗体検査・相談）事業
	石川県健康福祉部健康推進課	妊婦禁煙サポート事業
	石川県健康福祉部健康推進課	子ども健やかセーフティ環境づくり事業
	石川県健康福祉部健康推進課	入院療養児家族相談事業
	石川県健康福祉部健康推進課	未熟児ママの心のケア事業
福井県	今立町健康福祉課	スクールカウンセラーを囲んでおしゃべり会
	松岡町総合福祉センター	思春期の保健福祉体験学習
	三方町保健センター	妊婦歯科検診と唾液検査
岐阜県	加茂郡東白川村役場保健福祉課	思春期自立教室
	岐阜県中濃地域保健所 郡上センター	ハイリスク妊産婦等連絡体制整備事業
	岐阜県健康福祉環境部児童家庭課	子どもセーフティ環境づくり事業
静岡県	浜松市保健福祉部保健所健康増進課	外国人のための子育て教室
	湖西市市民健康課	乳幼児健診事業（未受診者追跡の強化）
	御前崎町 健康福祉課	チャイルド・くらぶ（地域サークル）
	舞阪町健康福祉課 保健センター	フッ素洗口事業

静岡県	修善寺町福祉健康課	食育ノススメ推進事業
愛知県	吉良町保健環境課（保健センター）	ワーキングママサロン
	吉良町保健環境課（保健センター）	祖父母会
	愛知県半田保健所	虐待防止対策事業（ほっと・はーと・めいとクラブ）
三重県	芸濃町役場 住民課	中学生の健康づくり事業
	南勢志摩県民局保健福祉部	思春期メール相談（思春期ほっとメール）
	三重県北勢県民局 桑名保健福祉部健康増進グループ	保健所と学校・NGO との協働で進めるエイズ教育
	三重県伊賀県民局 保健福祉部	伊賀地域周産期メンタルヘルス事業
	飯南町役場住民福祉課ふれあいセンターほけんふ室	療育教室（音楽療法サークルM）
	尾鷲市福祉保健課	健やか赤ちゃん訪問事業
滋賀県	彦根市児童家庭課・健康管理課	虐待予防～虐待・育児不安の養育者（主に母親）のグループカウンセリング
京都府	和知町保健福祉課	みらい君の食生活支援事業へのサポート
大阪府	泉大津市健康推進課	周産期における予防対応システム
	泉南市立保健センター	母子手帳交付時の相談・情報提供
	泉南市立保健センター	地域における公民協働の子育て支援活動助成事業～遊び場マップの作成～
兵庫県	社町保健介護課 保健センター	療育事業（ナーサリールーム）
	朝来町保健福祉課	健康な子どもを育てる協議会
奈良県	王寺町役場 保健福祉課 健康管理係	ちびっこクリーン活動
和歌山県	有田市健康対策課保健指導係	あそびの教室
	高野口町役場住民課	ありんこの会
	野上町保健福祉課	ミュータンス菌の母子感染予防
鳥取県	鹿野町立保健センター	学校・地域歯科保健推進連携モデル事業
島根県	桜江町役場健康福祉課	ひよこサークル
岡山県	西栗倉村保健福祉課	中学生親子面談（教育委員会、中学校との共同事業）
	岡山県阿新保健所	8020運動推進特別事業（330運動推進事業）
広島県	加計町福祉保健課	3歳児健診
	西城町保健福祉総合センター しゃわせ館 健康福祉課	フィリピン料理講習会（おひさま百科）
山口県	山口県長門健康福祉センター	園児を対象とした禁煙紙芝居
	玖珂町保健センター（玖珂町健康福祉課）	まみーくらす（母親学級・両親学級）

山口県	福栄村健康福祉課	地域ぐるみの学校保健委員会
	萩市保健センター	子育て輪作り推進事業
	光市健康増進課	おっばい育児推進事業
徳島県	徳島県阿南保健所 健康対策係	未熟児サポート事業
愛媛県	松山市保健所	児童虐待予防対策
福岡県	福岡町健康福祉総合センター（ふくと ぴあ）	プレネイタル・ビジット事業
	福岡市城南区保健福祉センター 衛生 課	親子でやろう乳幼児の 0157 予防キャンペーン
佐賀県	唐津市保健福祉部保健課	お父さんの子育て学級
長崎県	長崎県県南保健所	思春期相談事業
熊本県	合志町福祉課	妊婦あかちゃんふれあい体験事業
大分県	大野町役場 福祉保健課 保健衛生係	親と子のであいの広場